

課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
17106014	フェムト秒パルスラジオリシス法によるナノ時空間反応プロセスの解明ーナノ空間での量子ビーム利用の新展開ー	田川 精一 (大阪大学・産業科学研究所・教授)	A
<p>(意見等)</p> <p>本研究は、学術的また応用の観点からも目標設定が明確であり、これまでの実績に基づいた着実な進展を見せていると評価される。</p> <p>局所空間での極短時間現象解明はこれまで、シミュレーションに大きく依存してきたが、本研究はシミュレーションによる成果を実験により裏付けようとするものであり、今後の進展に全体の成果が依存している。</p> <p>これまでの成果から、今後の進展については十分期待できると評価され、今後の進展に期待する。</p>			